

第64回 日本消化器外科学会総会

腹腔内誘導マクロファージの細胞障害活性に及ぼす経口投与ソフィ -グルカンの効果

溝渕 俊二¹⁾, 谷脇 千穂^{1,2)}, 渡部 嘉哉^{1,2)}, 笹栗 志朗³⁾

(高知大学臨床看護学¹⁾, (株)ソフィ・研究開発部²⁾, 高知大学第2外科³⁾)

【はじめに】黒酵母由来の α -1,3-1,6-グルカンを経口投与するとマウス,ヒトでNK活性が有意に上昇し,マウスで抗腫瘍効果が認められた.ソフィ -グルカンの経口投与と抗癌剤との併用療法が腹膜播種治療として有効か検討するために,腹腔内マクロファージの細胞障害活性に及ぼす影響を検討した.【方法】マウスに5%グルカンを自由給水にて投与するグルカン群(G群)と水のコントロール群(C群)の2群で比較した.グルカン投与2週間後に2ml/匹のチオグリコレート培地を腹腔内に投与し,60時間後に腹水を採取した.腹水からマクロファージを採取し,細胞障害活性をNK細胞活性の⁵¹Cr放出試験に準じて計測した.【結果】計測開始6時間後の腹腔内マクロファージ細胞活性障害は,G群3.85%,C群3.47%と両群間に差はなかった.一方24時間後は,G群10.73%,C群4.41%とG群が有意に高値を示した(p=0.0257).【結語】グルカン経口投与により,腹腔内誘導マクロファージが機能性細胞として働くことが示唆された.従って抗癌剤とソフィ -グルカン経口投与の併用療法は,胃癌腹膜播種治療としての効果が期待できる.